

第 57 回いそご文化資源発掘隊 暗渠探索の愉しみ

(2022 年 11 月 7 日 / 10 日 / 11 日開催)

第 57 回いそご文化資源発掘隊
あんきょ たの
暗渠探索の愉しみ

2022 年 11 月 7 日(月) 14:00~16:00 (開場 13:30)

【暗渠とは】川にフタをかけたり、下水管を入れて土で覆うなどして、今は道路や歩道として使われている。

横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場 4 階 リハーサル室(コスモス)

◎募集人員：50 名 ※先着順・受付開始 10 月 6 日(木)
◎締め切り：10 月 20 日(木)
◎参加費：500 円(資料代含む) 当日支払い
◎申込方法：氏名、年代、住所、電話番号を
杉田劇場までメール・FAX・郵便で
〒235-0033 磯子区杉田 1-1-1 らびすた新杉田 4F
FAX：045-770-5656
メール：sugigeki@yaf.or.jp
電話：045-771-1212

磯子区内の 16 号線を歩くと、橋の名前がついたバス停、交差点などが多いことに気づく。これらは、かつて、そこに流れる川があり橋が架かっていたことを後世に伝える、いわば地域史跡なのである。磯子の台地からは幾筋もの川が根岸湾に向かって流れていたが、昭和 30~40 年代にほとんどが暗渠化されてしまい、今では普通の道路と見分けがつかなくなっている。

探索編
①11 月 10 日(木)12:30~16:00(予定) 聖天川を遊行する
集合場所/杉田劇場 4 階ロビー 集合時間/12:15 参加費/300 円
コース：杉田劇場～河口～杉田商店街～杉田 2 路切～坪谷(解散) 約 4km
②11 月 11 日(金)12:30~16:00(予定) 榊馬川を遊行する
集合場所/磯子消防署前の広場 集合時間/12:15 参加費/300 円
コース：磯子消防署前広場～磯子小～腰越公園～岡村 3 丁目～天神道路～岡村公園～笹原～岡村 8 丁目～久良岐公園(解散) 約 5km (途中休憩のため岡村公園に寄ります)
◎募集人員：各回とも 10 名 ※人数を超えた場合は抽選・受付開始 10 月 6 日(木)
◎参加費：各回とも 300 円(保険代・資料代含む) 当日支払い
◎申込方法：上記と同じ ◎締め切り：10 月 20 日(木)

主催：横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場
(公益財団法人横浜市市民文化振興財団・特定非営利活動法人チーム杉田/有限会社アイコックス/株式会社ニックスサービス共同主催)
問合せ：横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場 電話：771-1212 メール：sugigeki@yaf.or.jp

暗渠とは何か

どういふものか、その定義から始めました。「渠」とは人工の水路、掘り割り、溝をいいます。たとえば船渠といえ、船を建造・修理するための巨大な溝です。そして暗渠とは、狭義では蓋をした川や水路を言います。これを土木事務所に聞いたところ、地中の管渠を暗渠というとのことでした。

しかし、ここでは川や水路の跡も含めて暗渠とします。

暗渠化された理由

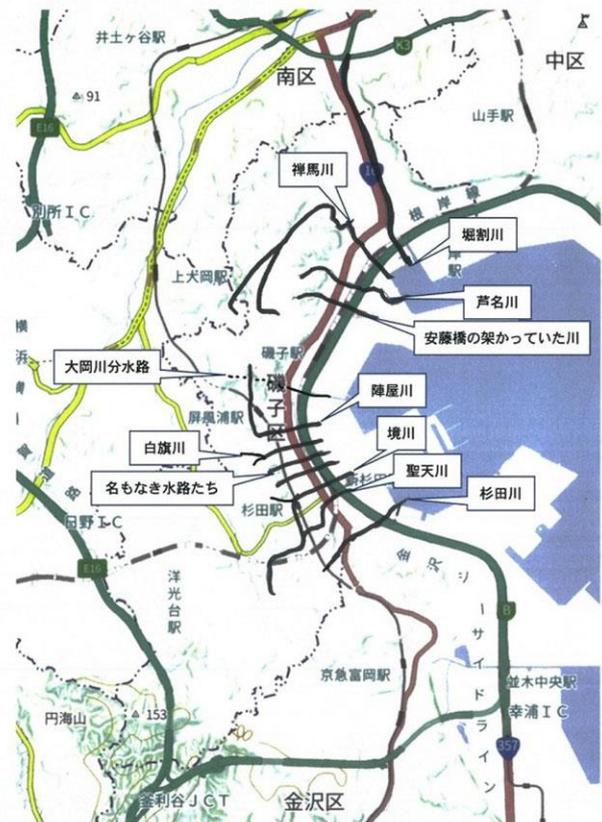
昭和 30 年代から川の環境が大きく変化してきました。工場や家庭からの汚水が流れ込み、悪臭もひどくなってきて、その改善が求められてきたのです。

川の環境は見た目や汚れだけではなく、さらに衛生的にも問題があるため、その対策が必要になってきました。

その他に、豪雨の浸水対策という目的もありました。大雨が降るとあちこちで川が氾濫したりしていたので、そのための対策もあったのです。

そして昭和 37 年、横浜市で初めての下水処理場となる「中部下水処理場」(現・中部水再生センター)が中区本牧十二天に造られました。磯子方面の汚水等を扱う南部下水処理場は昭和 40 年に完成。これは横浜市で 2 番目の施設となります。

同じころ根岸湾の埋め立ても進み、この二つの下水処理場はその埋立地の上に建設されました。



昔も今も、磯子の丘から根岸湾に流れ込む川はたくさんありました。

北から眺めていくと、まずは堀割川。これは自然の川ではなく、明治初期に開削した運河です。そして禅馬川。この川は汐見台、久良岐あたりから岡村、滝頭を通過して根岸湾に注ぐ長大な河川です。

その南に位置するのが芦名川。昔の欄干を柵に利用した芦名橋公園やバス停名でその存在が知られています。そのそばには、名前はよく分かりませんが、安藤橋の親柱が残されている小河川がありました。

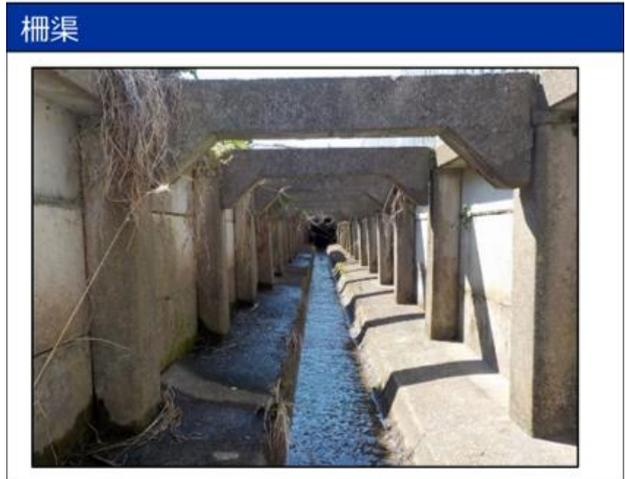
磯子駅から南側には、まず大岡川分水路。これも自然の川ではありません。大岡川がたびたび氾濫するため、昭和 44 年度から県市共同のもと事業を開始して、昭和 55 年度に完成した水路です。

中原から杉田にかけては多くの川が流れていました。陣屋川。京急屏風浦駅近くの高台から流れていました。白旗川。白幡川とも書くようですが、屏風ヶ浦付近の中心的な川です。

そして中原を源流とする境川と杉田坪呑あたりを源流とする聖天川。二つの川は京急杉田第 2 踏切で合流し、今も暗渠の面影が強い杉田商店街の裏道の下を流れています。

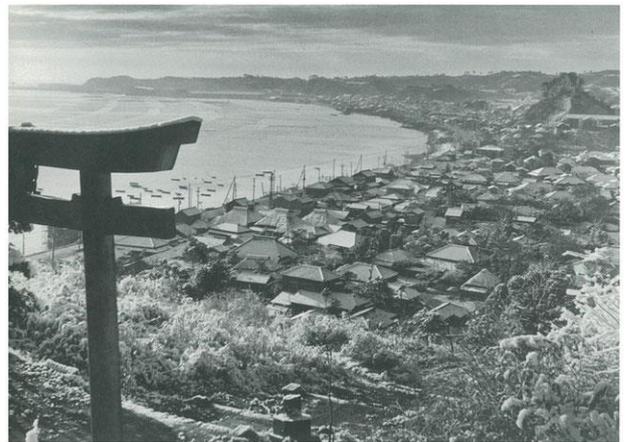
杉田川は短い川ですが、磯子区と金沢区の境界を今も流れている川です。

暗渠の姿



根岸湾埋め立て前の風景

(磯子区役所発行の『浜海道』より)



↑ 森浅間神社から(昭和 20 年代)



↑ 上の写真と同じ場所から(昭和 30 年代)



↑ 前の写真と同じ場所から(昭和 60 年代)



↑ ベカ船

↑ 海苔洗い



↑ 海苔干し



↑ 昭和 30 年代の屏風ヶ浦交差点



↑ 白旗付近でアサリの収穫



昭和 34 年から始まった根岸湾の埋め立て

昔の地図を見ると海岸線は、だいたい今の国道 16 号線と重なっていた。国道からあちこち出っ張ったところは、戦前の、それも明治や大正から埋め立てられたものだった。だが、なんといっても磯子を現在の姿に変えたのは戦後の埋め立てだ。

その埋め立て工事は、昭和 34 年 2 月に始まり 46 年 2 月まで、実に 12 年もの月日が費やされていた。

昭和30年といえば、「もはや戦後ではない」といわれ、農村から都会へと人々が地すべりの移動する「戦後日本の都市化」が、まさに始まろうとしていた――。

時あたかも、日本列島は朝鮮動乱による特需景気をバネに、所得倍増に向けて高度成長のツバサをはばたかせる前夜であったから、根岸もその滑走路の一本となった…。

時を同じくして、川の埋立てや暗渠化も進んでいったのである。

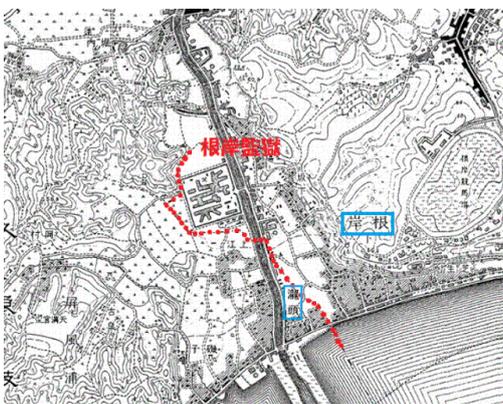
川のない橋／バス停名／交差点名／NTTのケーブル名／欄干・親柱／水門

こういうものたちが、かつてそこに川や橋があったことを物語っている。



根岸湾に注ぐ水路を遡行する

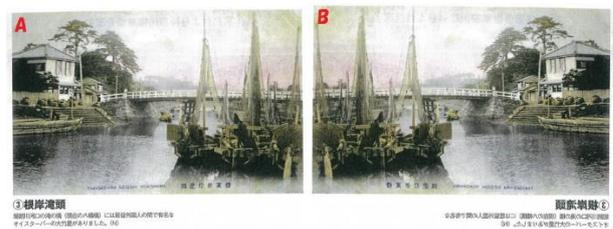
この講座では禅馬川、芦名川、聖天川の3つの川を取りあげた。その解説の前に、堀割川について少しだけお話をした。



これは明治36年測図(1/20,000)の地図。赤い点線が根岸と滝頭を分ける境界線である。もともとは、このライン上に八幡川という細くして屈曲した川が流れていたという。

明治7年に直線的な堀割川という運河を開削したため、根岸監獄は滝頭側に残り、逆に滝頭の八幡様は根岸側に残されてしまった。

八幡神社のある原町町内会は根岸地区に所属しているのだが、お祭りの際は根岸八幡ではなく、滝頭地区の一員としてこちらの方に参加しているのである。



八幡橋と八幡神社を描いた着色絵ハガキ。Aが売られていたハガキであるが、何かがおかしい。橋と神社の関係だ。

これを反転してみたのがBの写真である。河口から見た橋と神社が正しく描かれている。

つまり、売られていた絵ハガキは裏焼きだったというわけだ。



正面奥が16号線から河口に向かう暗渠。



国道 16 号線を渡ると、いきなり暗渠らしい道が現れる(A)

暗渠の右側には、かつての花街が広がっている(B)

小さな公園(C)を過ぎ、産業道路を越えると開渠が現れる(D)

屈曲する細い道、「川界」と彫られた杭、ケーブル名「地下配」。

どれも暗渠を暗示するサインである。

ここから源流までのコースについては、11月10日に行った探索の報告で語るの以下は省略する。



禅馬一之橋。橋には、通常、橋名(漢字)・橋名(平仮名)・竣工年月・川の名前がセットで表示されるのだが、ここでは禅馬川という川名が欠落している。



国道 16 号線から上流に向かう入り口。



芦名川は磯子6丁目からの流れと、山王台からの流れが芦名橋公園のあたりで合流し、産業道路を越えて根岸湾へ注いでいる。





暗渠の傍にプールあり。



芦名橋公園。



二股を左へ。同じ石積みが続く。



これは芦名川の護岸だったのではないか。





この辺が水源の一つか

右横の極細傾斜地

芦名橋公園から山王台ルート



聖天川



新杉田から河口へ





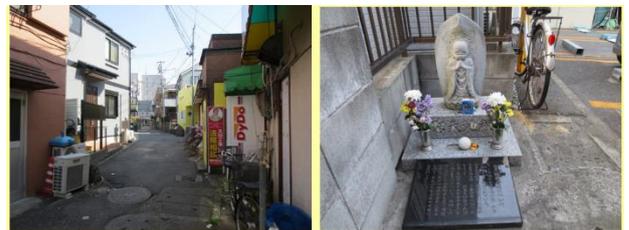
新杉田から上流へ



聖天橋センターは川の上につくられた。



大正から昭和初めにかけての地図情報
「土地宝典」(昭和6年)
川が描かれている。



聖天地蔵再建について
昔、この地に小さな庵があったと小林家に言い伝えられている。庵主聖天様が、毎朝聖天川に架かる聖天橋を渡って東禅寺に詣でたそうです。 現当主幹弥さん談

杉田小学校平成十九年度卒業六年一組が聖天川について勉強した際に、破損した地蔵の姿を見て再建を考え、多数の地域の方から募金を頂き、平成二十年三月十七日に落慶致しました。



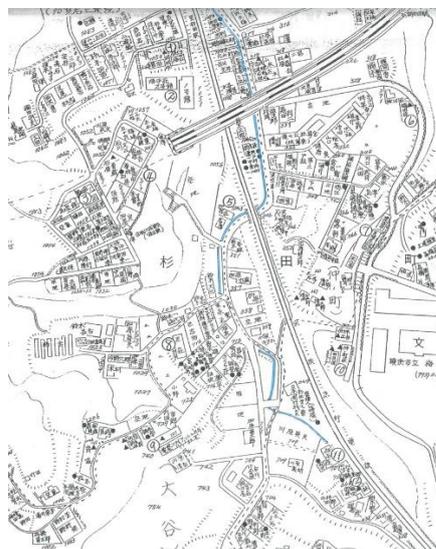
聖天川が描かれている昭和5年の火災保険図。
川沿いに瓦工場があった。おそらく大量の水を使っていたのだろう。聖天川に排水を流していたに違いない。

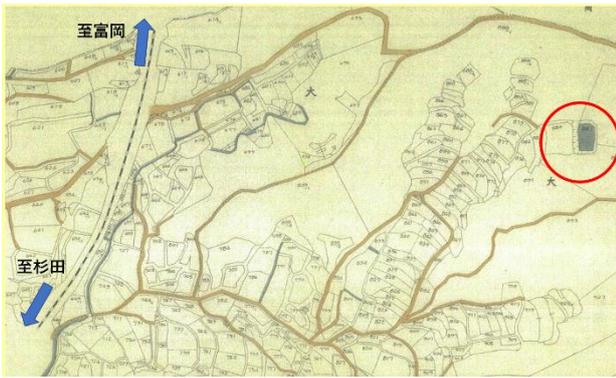


やはり、川沿いには工場がある。



右下写真は坪呑ルートと大谷ルートの分岐点





土地宝典より 杉田大谷



大量の水が必要な養魚場があった。



神奈川県が管理する広い土地



上は区画整理された街



左側は総壁のよう



こんな所にガードレールが！

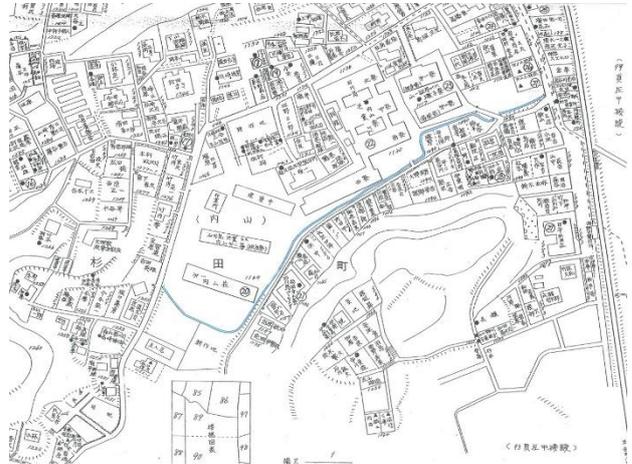
水路がある！



そんな中に調整池がある



大谷ルートはこの辺から不明



坪春ルート

本流はこちら

坪春への近道

畑作豆畑の農家「岩崎商店」

車道に沿って金沢方面へ

welcia



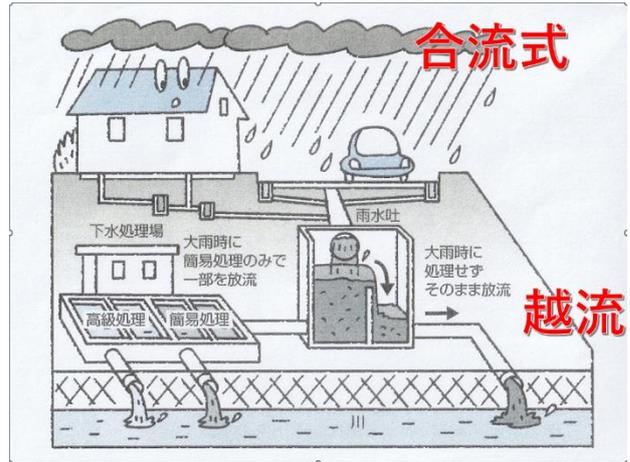
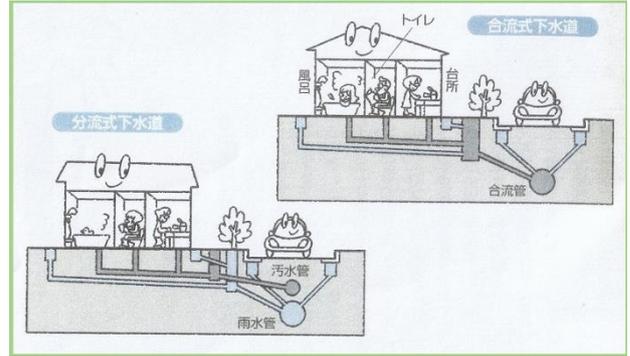
だんだん道幅が狭くなる

根岸線のガードが見えてきた

竹を立てて決めるか



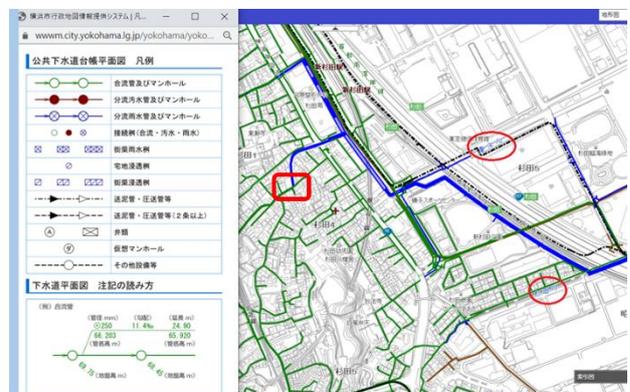
下水処理の方式



大雨が降った時は、すべて処理場に送り送り返まらず、その手前で越流させて川に放流している。



磯子区は全域が合流式。



聖天川の合流管。

